



門川町教育研究所だより

ふれあい

令和元年度5月号 No.2
発行 門川町教育研究所
所長 新原とも子
TEL 63-1566
五十鈴小学校内(教育相談室)

令和元年度教育研究所研究員委嘱状交付式と第1回研究員会



平成から令和となった10連休明けの5月7日(火)、門川町教育研究所研究員委嘱状交付式を行い、各学校から推薦された7名の先生方へ委嘱状を交付しました。式後、第1回研究員会では研究の方向性を共通理解するとともに役割分担も行って、今年度の研究をスタートしました。働き方改革の波が研究所にも押し寄せ、研究活動も月3回から2回へ減少したため、研究内容を焦点化し、効率よく研究を進める必要があります。研究員は勤務終了後に研究活動に携わりますが、昨年度より30分早く午後6:30には研究員会を終了する計画です。本年度も門川町子どもたちのために力を合わせてがんばります。

本年度7名の研究員を紹介します！

- 新任** 門川小 中村 将吾 教諭
- 新任** 草川小 岩切昂太郎 教諭
- 新任** 西門川小 宇都宮 浩 教頭
- 再任** 五十鈴小 江藤 建輔 教諭
- 継続** 五十鈴小 児玉 晃太 教諭
- 新任** 門川中 永岩 征龍 教諭
- 継続** 西門川中 吉田 義一 教諭



応援をよろしく
お願いいた
します！



交付式で委嘱状を受け取り、一人一人自己紹介を行いました。
写真左から、宇都宮教頭・中村教諭・岩切教諭・江藤教諭・児玉教諭・永岩教諭・吉田教諭の面々です。全員を代表して宇都宮教頭が挨拶を行いました。

第1回研究員会から早速、研究テーマ・研究の方向性等を協議しました！



今年度の研究内容として、大きく2つに絞って取り組む方向性を検討しました。一つは「タブレットの効果的な活用法」もう一つは「プログラミング教育」です。授業研究と実践研究に取り組み、その成果を町内教職員へ普及推進することで、児童生徒(教職員)の情報活用能力の育成を目指していきます。目標達成の鍵は「明瞭なゴールイメージ」を持って取り組めるかにあると考えます。

昨年度に続き、今年度も「心に残った本の一節」を掲載させていただきます！

心に残った
本の一節

「誰もが昔は生徒でした。教室で、グラウンドで、先生がくれた言葉に、いま、ありがとう！」ラジオ番組「ありがとう、先生！」のナレーター純名里沙さんのナレーションです。この番組が伝える、生徒に届けられた先生の言葉をまとめた本の一節を紹介します。
〔出典：TOKYO FM 発行「ありがとう、先生！」より〕



「平気」になれるコトバ ~ 自分を変えたいなら、いまの自分を受け入れなさい
~ 高校生の頃、私は自分自身の容姿も性格も大嫌いで、変わりたいと常々思っていました。そんなときに言われたひとことです。自分を否定するのではなく、まずは認めることから始めないと何も変わらないと気付くことができました。

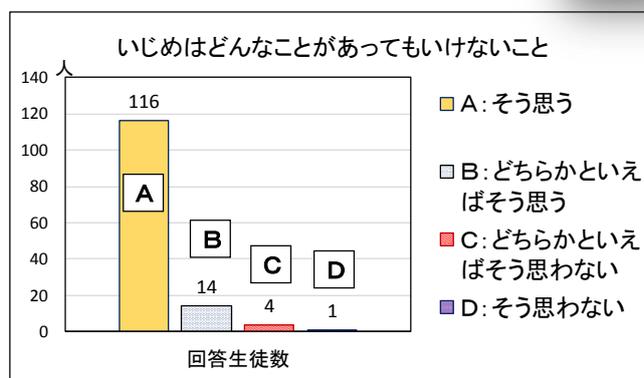
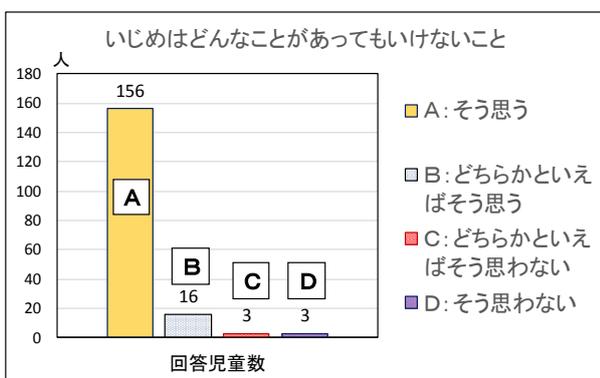
Gogatubyou! お子さんの様子に変化は見られませんか?



10日間という超大型連休もようやく過ぎ去り、日常が戻って来ましたが、この時期は子どもたちの心や身体に様々な変化が見られるようになります。俗にいう「五月病」と言われる変化です。環境の変化に対応し切れず自分をうまくコントロールできなくなり、朝から頭痛や腹痛を訴えたり登校を渋ったりします。お家でのお子さんの様子はどうですか? 我が子の様子を確認してみましょう。

いじめはイヤなことだと「思う」～「思わない」の回答別児童生徒数の状況は!

下図は平成30年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんなことがあってもイヤなことだと思いますか」との問いに対する門川町小学校6年児童と中学校3年生徒の「思う」～「思わない」までの回答状況です。(左が小学6年、右が中学3年)



グラフの回答状況から町内の6年児童全体の97%、3年生徒全体の96%が「いじめはどんなことがあってもイヤなことだ」と考えていることが分かりますが、わずかでもそう考えていない児童生徒がいることも分かります。いじめは絶対にしてはならないことなのです。

いじめの早期発見は大人としての大切な役目です。いじめが表面化しないうちに芽を摘み取ることが子どもたちを守ることに繋がります。

子どもの教育や子育てで、悩んでいませんか?

困った時には、教育研究所「教育相談室」に気軽に電話をしてください。来室相談も受け付けています。

相談電話 (門川町教育相談室)
Tel・Fax 63-1566

～～返信欄 (教育研究所便り「ふれあい」へのご意見や感想をお聞かせください。)～～

